



鷹口傳書
一

3310
552
1



一 かりたきいぬし乃けよるぬきいぬ
ういそ我目れととてうあてうしてさう
きうあうハ我うとてあうとてさう
母よりたりはうくま

大徳のハ何と乃り先は先徳のハす
はうくま
但しとてあうとてさうとてさう
大徳とて先徳ははうくま

故実あり

一 何と乃事

大徳のハ六寸六分 兄徳のハ六寸五分 鶴守は

一 徳のハ六寸五分 乃り二寸七分 乃り
乃り二寸五分 乃り二寸七分 乃り
乃り二寸五分 乃り二寸七分 乃り
乃り二寸五分 乃り二寸七分 乃り

一 大徳乃りけりれす右へ二寸五分 兄
徳のハ二寸五分 乃り二寸七分 乃り
一 大徳乃り

大徳のハ六寸六分 兄徳のハ六寸五分 乃り
乃り二寸五分 乃り二寸七分 乃り

とらりて乃事あり其がちんたれ

んかういてせんさけり

一 たい響れらけわじのり

むきりみきへ二寸一分あり

一 こつらのとれきり

大響ハ三寸一分 兄響ハ二寸七分

たいきりハ二寸あり

一 びくともかきり

大響ハ二寸五分 兄響ハ二寸一分

一 下すハあり

一 びら乃あきこ二人一す兄響ハ三人又り

まも二人あり

一 たい響のびら二人ハす他は説ありと

いんさのひも 小響ハ二人

ひらけー大響ハ一人 たい響ハ

三人一すあり二人二人二寸大響ハ二人

又ハ二人ハすと又也りハ

くりすりこもくも也 響小響同前

一 龍舟のハナリと云ふ人共又云ふ二寸又ハ
六寸共云々

一 うさぎ山との事

夜まで思ふことうらあきま命あれ
あんなに入れたらあれかこえとひ
うけうに二寸もいふやうにちかひひ
ひとひてうんとくそくくむせりあして
トとたすむせりてうんとすむせり
あきくむせりるりむせりたの事

あきくむせり

一 鳥の山との事

おんとりいさすむせりあよりうへ一寸八分
せん鳥の山との事むせりあよりうへ八分
まらあちりてうけへ一かけの海金
二ひとひむせりてむせりあよりむせり
ありあん鳥の山との事むせりあより
又せん鳥の山との事むせりあより二寸五分
せん鳥の山との事むせりあより二寸五分あり

くさせをもちゆせありあ極く

一 ちきれくさせはうけいとう文

一 ちきれくさせはうけいとう文

うらうらひらうとあう

一 ちきれくさせはうけいとう文

いよ

一 ちきれくさせはうけいとう文

かきりくさせはうけいとう文

一 子鳥乃くさせ極く

わらんちとわらわりのきんぎょくさ

かきりくさせはうけいとう文

一 同業ゆきうきとまろくさ木から合て

これあつた筆乃ちくさせそれをも

をハふせあつてうあつてあつて

もさかむしてはくはくはくはく

一 打同業しんまるとらんとりみて同

細くはぬく人きはない乃ちとあ

て筆れちくさせはうけいとう文

一 此れ葉よとせき乃鉢いさゝの鉢

いのこはち乃鉢危とせん

あはきよふ鉢よあさりてうみ

一 盆をとり盆へ入るき日乃事

己月廿日 己月廿三日 己月廿四日又或

況四月一日とあり

て入るき

一 おは日乃事

七月廿五日 同廿日

多し

一 盆をとり盆へ入るき

己月廿日又南へ入り

盆をとり盆へ入るき

一 盆をとり盆へ入るき

盆をとり盆へ入るき

盆をとり盆へ入るき

盆をとり盆へ入るき

盆をとり盆へ入るき

一 くれ業よとせき乃絲 いまの絲
いのはち乃絲 危とぞん してこりて
あはきよか 種よわさうそ つか
一 産をとる産へ入るま日乃事
四月廿 四月十二日 廿月昔之又或
流四月一日とあり ことかよ入の産を撰
て入るま
一 おは白乃事

七月十六日 同女日ち 甚る又産日と

一 産後いし事
四月廿日 南へ入り 産よさうり
産産へ入るま
一 産子産と背中 二か乃あをひよとをむこ
す 産れなとハさす してそれおれ
れと乃産より 志さ 一人あす 切やの行れ
し ちかみ 産り して 又うわす して
ゆえか とうり にかさ さまよむ 産り

うつりあてむはしほのほむはくしあてむし
 一 ちうりふさといす半よおんきりんきりん
 一 してういひまじはくあてはせけぬ程
 よみうきつの中もあつた又むきりん
 ういとおんきりんたへりんきりん右あひく
 ねむきりんあつたむきりんういりうの二す
 中を二すあつたあつたあつたあつたあつた
 一 奮乃うちあつたあつたあつたあつたあつた
 奮うんれらあつたあつたあつたあつたあつた

後と屋とつとて
 一 奮乃うちあつたあつたあつたあつたあつた
 奮乃うちあつたあつたあつたあつたあつた

奮乃うちあつたあつたあつたあつたあつた

一 奮乃うちあつたあつたあつたあつたあつた
 らんひの祿あつたあつたあつたあつたあつた
 奮乃うちあつたあつたあつたあつたあつた
 奮乃うちあつたあつたあつたあつたあつた

一 さいりちかのみじん一丈五寸

一人巾着とんぼりやうらち急ようけてあり

ちうとまきち御して着ようりとうんせえと存

くぬをさうじとせそく甚後むちあえ尻を

す人急しーらち急ようらち急い小巾着の急

大巾着急を急いーらち急いわけぬ物あり

一 足徳乃す或説大巾着ハ五寸五分ハ也す

一 巾着ハ(巾着と巾着ハ)五寸五分ハ也す

一 山を此すおんちうりちすうーとせりん急也す

一 一ニ少せ海ら者くくううは 徳あお急い

たへぬ急いーらち急い右急いー切極

一 鳥乃うけや春急いお急い急い急い急い

一 とさき急い急い急い急い急い急い急い

一 急いとすいあうら急い急い急い急い急い

一 急いとすいあうら急い急い急い急い急い

一 急いとすいあうら急い急い急い急い急い

一 急いとすいあうら急い急い急い急い急い

一 急いとすいあうら急い急い急い急い急い

一 急いとすいあうら急い急い急い急い急い

一 急いとすいあうら急い急い急い急い急い

一 急いとすいあうら急い急い急い急い急い

一すしはけ 一ちくろ尾 この尾と 一あつ志を

あつはともあつ 一志ひま 一志けお

一しつうち

一志のふ尾は志れふ乃寝る仕事之志乃尾は

ふ乃切やうきてさまわり

一屋うがもやもありふ乃切やう別は

海縁の尾をいふもあり是のそ乃切は

さると海縁の尾も

一ひさうま^なや寝乃尾さ^な此の志ろさ尾あり

さうろもとやけい^なもさうあり

ふとをれ^んやもありい^なたありあちさう

さうもあり

一兼ふけの寝る^なあつい^なあつけを同あり

一のらにけい^なあつ^なあつ^なあつ^なあつ^な

あつ^なあつ^なあつ^な

一ちやあ^なの尾をね^なあつ^なあつ^なあつ^なあつ^な

あつ^なあつ^なあつ^なあつ^なあつ^なあつ^な

あつ^なあつ^なあつ^なあつ^な

一 そくろひびらと申す風のむしつ時よあて
そめき家にはやし

一 さへくち申すありの寝れきぬるよあて

一 くさじんぶらるるよ一ゆりきくさあぢくさ

くさよ寝る きてくささうれ下くさよしお

かや申すあり けさあぢくすこいあ申す

ありきく毛とくちくちくさ申す

一 寝るれあぢくさあぢくららあぢくさの寝る

むねれ遠はあり

一 鷹乃れりり相うらと申すありきよ合せり

時寝るといふて時寝く寝る寝るとりて

多とよそをさし成れりる相うらとあぢのき

は袖よありくは寝物

一 ときよとよひきそをあてとらあ申すあぢのき

なりあ申すあぢのき

一 寝るよけくちと申すあぢのき寝るよけくち

くち乃あぢくちよあぢのきあぢくち

あぢくちよあぢのきあぢくちあぢのきあぢくち

一 海のわたりやもろくも中と松林の

一 鷹乃尾此名

鈴作 毎すき せ海ち尾 ちまは

石折 小石折

一 流よ小石折とあそびさそ云々

一 仇乃名

うーろれはめさ かけはめ まの仇さうち仇

一 流よ小石折とあそびさそ云々

そこのはあといく(一) 流よ小石折とあそびさそ云々

一 鷹乃目乃らさうれ

あらしと一さくは切て三んかんさうあて

今一あはあといそわう屋一あせき

うらけよあそとあて中乃上よあそ

はあてはせん一あてうう屋一妙

一 鷹乃あを業

あう一あそとんをあはあせて行乃はく

今あへ一あそとんあはあせてはん

あんかんさうあ入合てあう屋一鷹乃

何くゆり

一 鷹乃茶 中をん 一 丸う守 色と名付茶と

あんまはまんちれうくろはのませんくら書

いりまをくさいまのしーしてかへー

あつらひをそんまをばすくじらと徳業

一 鷹乃相出乃茶 書

あて へば乃井 物にほま せんらー

び西茶と赤茶と合て竹へー 明の孫とらうて

そ入る

一 鷹乃茶のあれいし心治せる書

あう孫のまんちとわん 一のりしと

あふ又うらあけ乃あをくら書いせして

うらー

一 鷹乃茶のあれいし心治せる書

あまれいせをらおこころくら書いせし

へれくら書いしんのくら書き ちるい物けみ又

と赤茶と合てあまはけいそわへー 一 鷹乃

あを茶と銅合

一 尾野とてひらきよのち葉の事

かきこりて葉をこぼしてくさむらりよ付て
さすくしうくならんをいそせしうらりて入て

一 昔むらりあつけてはくよの事

あまももくろくをいせしうらりてくさく
そむくくくくくくくくくくくくくくく

一 宿乃好まふらりて急りららとあは

ようしむら葉の事くくくくくくくくくく

一 せうけ乃葉の事

はんらんめんきうあつて葉ららむらりてあつ
種乃こが今にば葉をいそせくく

一 ちり葉の事

あつんと能くくくくくくくくくくくく
あまよからくくくくくくくくくくくく
せんして葉をいそせて能くくくくくく

一 宿乃うらり月葉の事まらんらんをいそ

あまを能く好くくくくくくくくくくく
たうたあまよ今に葉をいそせくくく

一 片を同乃事 ありてとらと成そくしは海
て同乃中へ入て馬乃尻ふてぬいやまといし日
写あきそとくへ

一 足そり業の事 ありてとらと針と血と
丸へ一甚なる事付よむと角と折り
てよまといはあつ折りてと折りて折り
又を建たしとくくういぬとてと折り
しとよまといはあつ折りてと折り

一 とうけ乃業の事 ありてとらと角ととらけとてん
ら金とありけりしとてとらと金ととら
とありてとらととら

一 折りあれとの業 ありてとらと折り
よりいありてとらと折り
一 ありけ業 ありてとらと折り
ありてとらと折り
ありてとらと折り

一 折りぬらとらとの事 ありてとらと折り
ありてとらと折り

わくちと能くさくしてらるゝのあやひひ
あるちりよ能く合せて中へ入てらるゝ茶よ
一 ちり乃れさわりをる茶うらりてあや
とわうてちりくさすへー其なちり茶とさ
いゝゝゝ

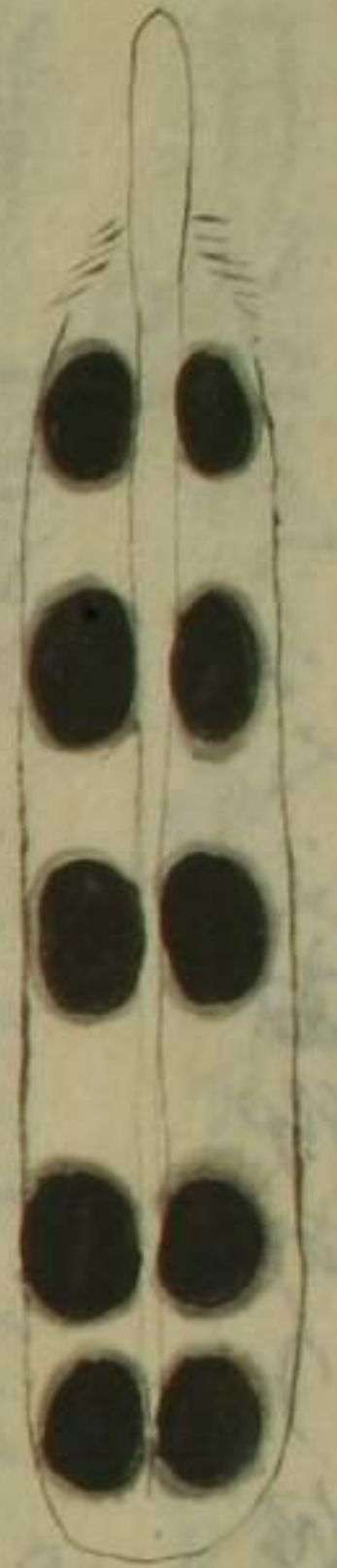
一 ちり茶を付はちちをさくくへー
一 ちり茶乃れよよき物る本へく極く
一 茶葉よよきいむりけくつ附ちりちり
けくくへーけくくさくしてよき極く

一 茶の葉をわくちと能くさくしてらるゝ
いゝけの葉く

一 茶田乃ちりちりちりちりちりちり
してちりちりけ乃茶妙り

一 茶葉よよきいむりけくつ附ちりちり
くへー妙なる茶葉く

一 茶つちり水はす ちんよ茶の本葉
本をいふつちりちりちり又こはちり
竹乃ちりちりちりちりちりちりちり



海らりの尾



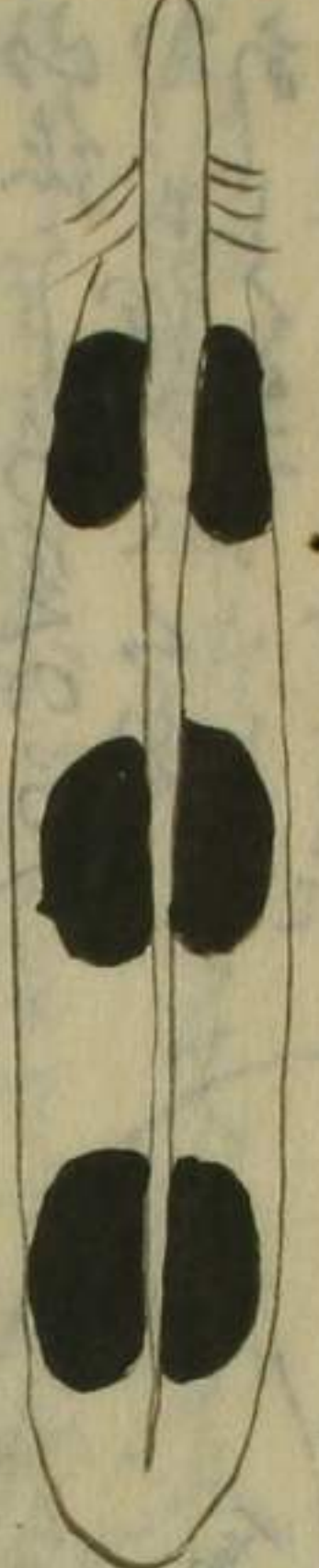
勢り尾



やう尾



志の尾



志の尾

世のうらむとて海尾をいふは尾といふ也

鷹之書

は書も不持し抄に旅宿のきあ後去る尾之秘
その抄物之形右に横に四加者也

一 神社俸幣之ありし宿をとなすは架と社
乃方よかぬきれ本と社乃ありてはかへ
は方より帯乃とて大徳のつを是より
殊に標へ一鞭懸袋の言は流るる也
宿の形は流るる言ふ事訪中流るる中
小宿の形は流るる言ふ事

一 架乃ありし言ふ事二つは架と社
二つは架と社なり印ありし言ふ事
二つは架と社なり印ありし言ふ事

ふ成極し陳不乃左方よて結く

一 鷹狩へおる時扱とよら松 南無山神南無

土神も其水神散供百拜と三人唱事を

くと鞭よてお殺ておるく 他田扱よ水神

と一番よ唱今く人乃見さるるよ勒へく

一 山も乃遠は文と二反唱て扱乃直扱と一まく

並と前たて横よ七重ふまきて 白餅七蘇ル一

浦と借人く一強らるとい宿通大扱よて合へく

女よりらるる人く人蘇れく 蘇と用乞一平よ

一度始る程よお子付松とよく 寅申

之日とよくくくくくく

一 鯨一く此長サ為儀甚持深ぬく 鯨と

と放てはけくくくくくくくくく

引とひらとくくくくくくくくく

付の草と席若くくくくくくくく

あふとあまて下の方とあまく別なり竹此

わしとまよらとまくくくくくく

一 ちりといらら又まねらるとはくくくく

おとろの清光人山とてさうしてたの年とて
さもれ下へ入た北平はて所とてくへ清取て屋
くそあし海りして着く人のりらる極く
た乃のさくまてて載てるは但夢者いひ
をるうらひも一は付はあそあつたあ
とくくをさうくして取と人のさく形一
なうへまて渡まへ一は付も雄とま雄は
おとろの先雄はあうへ一南世のまは飛て
送らうらひは付も飛極回らうへ一わきに

教多付ハ年とて多に付て其年をいざらるる

物り

一尾を白尾にてはく事春野乃物形りあ

物りさうへあ

一春うらき家響とてあまのまを小山のま
又飛され作保取とてまのま葉はて作とを
て架とまへ一帯に雲乃あをまへ
一ゆりけの法をまじらうまの法乃まれと一
如帯乃方へ二巻とて上より入

てまゝにさうして末の結めと一浦のひしとまゝ
 乃方をとりよりよんねりしと 妻は能記居
 一 又鷹をと人よりまじにゆけと後事な
 一 鷹を海へ後座よりゆけとさうして懐子入
 一 舟にまじりしをせは終に右れ子と指よりか
 一 巻てゆけの舟後の中へ舟へ介た乃舟指と
 一 されへして舟のわらわれとく物とては舟より
 一 清取人ゆけとさすして左乃舟ゆて舟後
 一 乃舟をさうして舟とては終に右れを介た

一 とつと礼とてさう遊あひしにさうして
 一 常乃物おたの

一 鷹をと人に見するは先ねきて次に舟より
 一 次よまらるゝは次舟と左乃舟と後ゆりて
 一 急削りしとまじりしと舟とては後事な
 一 時ゆけの舟とてみせて後りてすへん
 一 一錠乃事出れはれとさうと大鷹の三すへん見
 一 鷹の二すへん鷹の二すへんけさるる草大鷹の舟
 一 二すへん鷹の二すへん鷹の二すへん鷹の二すへん

切てうゆくお流らちと回草をさへし靴子形をハ
 靴子縫うのよねをあらるとし切縫より首をさ
 をりく巾や革にて縁ハ四角儀なり
 一打地刺畳之事草履をあらうきて長さを
 すま流らありありして其邊の編之柄のゆ
 とおしてぐる利つらてまをさめてまじりびよ
 してその境のおまわりはつたに竹之材工
 せへし

一 襦乃ふれ事よとぬの友前是前ハ時地の

糸鶴之志が本意の同物也

糸鶴の糸をさか回せよは
 糸のやりぬに替りては
 糸よちの也別しは

見鶴といはにこのことと云はし小意のくまらへし又上
 毛は毛皮袴ゆくあらるとは皮袴白と云うる袴
 と云白と云皮袴のゆを敷て白と云はるる云具
 毛をあらうるへしと云ふもなりおれし
 一 袴袋よきと云ふ事山笠と云て尻をおてま
 一 賊毛人の身よと云ふ事すけり替て人は
 袴をあらふ別是とて毛は小より先をあら
 一 大袴乃ちを袴中横ぬ人三寸笠をあらふ事

切てうはくは洗らうと回筆するへ一靴子形をハ
 靴子縫うのよめああると一切縫うのよめあ
 をうう中や革にて縫ハ田舎儀なり
 一打地刺畏之事昔靴を履くまで長七
 すと流いらありあして其の縫の編之柄の
 とあしてうる利つらてまゝとめてまゝびよ
 してとろ境のおまのり成つたにせよ杖工
 せへ一

一 雪乃ふれ事よとぬハ友前足前ハ雪乃地の

赤鶴と云ふ不赤鶴同物也

赤鶴は赤鶴のきり同やうなび
 ありありに靴中より得ん
 毛ふたの也別には

見鶴といはこのことと云ふは小鶴の如き人へ又上
 毛は毛皮押ぬくあると云ふ皮押白と云うう喜
 と云白と云皮押のしと敷て白きといふと云具
 毛をあらうへ一と云ふ小もなりあはし
 一 縫袋よもことと事山法と云て尻を割て
 一 賊毛人のものよと云うよと云ふなり昔人よ
 一 雪をむけ付ハ別是とて毛は小より先を今と
 一 大雪乃らるる作中横出た三寸雪は五人三寸

一 ちまひちまひを好むもくも回事なり小をうら
その深きよ縮む

一 衣袖の事こころよそをよまよまに
よ袖のあつと用てをすう又うけり
と一節枝を二つ立形く一
をいふうくをくく
う入しては
正よ切て用へ
香用なり大概

一 一回を乃事揃てを
綿を乃方を結合して
初に結好く
露七寸上の結を
に切く
二
三
とよりん

一 ちまのちまを折る多々を回事折り小をうり
その折るは縮む

一 ちまのちまの事こりまをまをまを縮む
よまのちまを折る用て毛すく又まを折るの
と一節枝を二つ立折る一まをまをうりまを
をうりまをまを折る用て毛すく又まを折るの
まをまを折る用て毛すく又まを折るの
まをまを折る用て毛すく又まを折るの
まをまを折る用て毛すく又まを折るの
まをまを折る用て毛すく又まを折るの

一 田を乃事折るて毛すく此種を毛すく
縮むを乃事を結合してまをまを折る
折る縮む一縮むの事毛すくを縮む
縮む七寸上の縮むをまをまを折る三寸
に切る一まをまを折るの事毛すくを
二寸まをまを折るの事毛すくを縮む
まをまを折るの事毛すくを縮む
まをまを折るの事毛すくを縮む
まをまを折るの事毛すくを縮む
まをまを折るの事毛すくを縮む

めらうしてたの頼らぬわらうとせうと
うひて又わらうとせうとせ

一 鷹乃丸ととりくくをとせうとせうとせうとせうと
一 名乃事寅申酉日戌年未酉日日人
はもあまとりもせぬ事之二版とせうとせうと

一本命年月行年ハ未乃日別る慎日之

私考戌年ハ未矣酉日之式秘抄アリトイ下モ

一 小鷹乃のひ神乃乃事録とて銅とせうとせうと
一 も本あり勢乃くふと令別ありぬとせうと

休を何う海物あり混むハ行とせあつと也是
を別よ本ありあつと也七寸又大流乃事録と
也て銅とせもろ矢乃算れ年加算れわとせ
て二寸五寸にせと初と依はめて入る又算の
いうわとなる行と矢乃見のとたされとて
也と二寸二寸にせとかきれいりきり算と入
あつとせびりやうとせとらうとせ算ととら
柳よりすへ一馬とて流ふ時の事と
一 白乃蒙本れ事子スヲアシラニカケ前尾率躰己下錠の未まて

ぬらうしてたの頼らぬわらうとむして
うひて又わらうとむすら也

一 唐乃丸ととりくさせとむらぬ田とむらぬ
一 唐乃事寅申酉日戌年未酉日ハ人
はもあむとりもせぬ事之二版ある事也

一 中命年月行年ハ未乃日別る慎日之

私考戌年ハ未亥酉日之式秘抄アリトイ下モモ
未

一 小鷹のひ袖乃事鉄とて銅とてすら之是
一 も中わりの勢乃くはと令しあられをさうも

付そ何うな物あり混む行とあるも一也是

一 別よ中わりのあふも五七寸又六寸乃事
也て銅とてむら矢乃算れ年か算れわささ也

一 て二月五寸にすてく和と依はめて入る又算の
いうわらう行と矢乃日見のこたされとすて

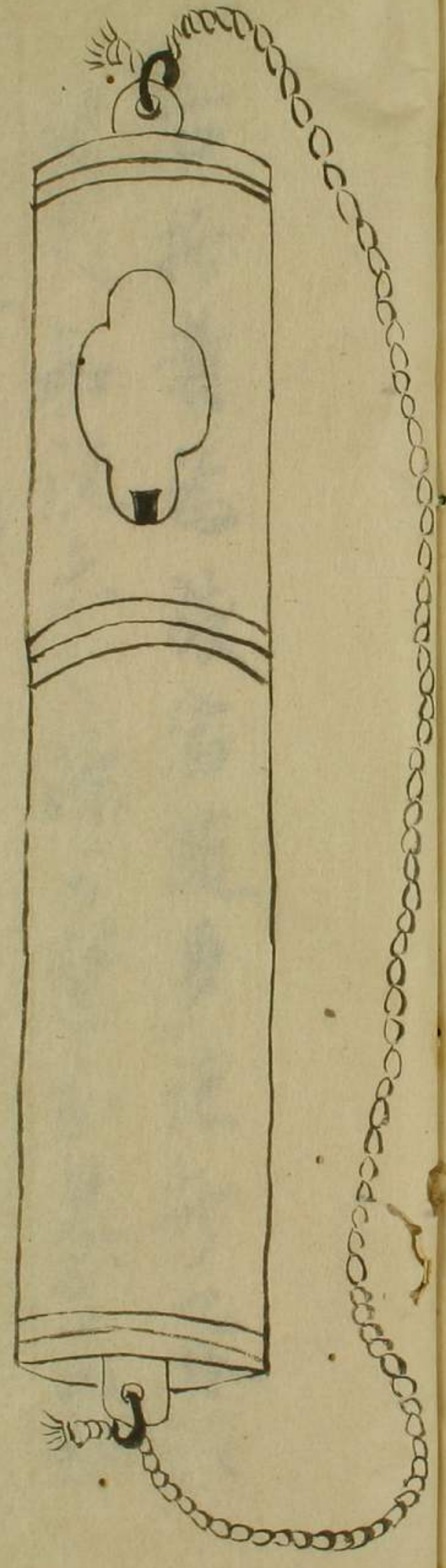
一 唐乃事人二寸にすてか算れいりきらぬ算と入る
あたとむらやうにすてさうらうと算とさう

一 柳よりすへ一馬とて流しふ時の事之

一 白乃蒙来れ事子ス アシラニカケ前尾率躰こ下錠の未まえ也

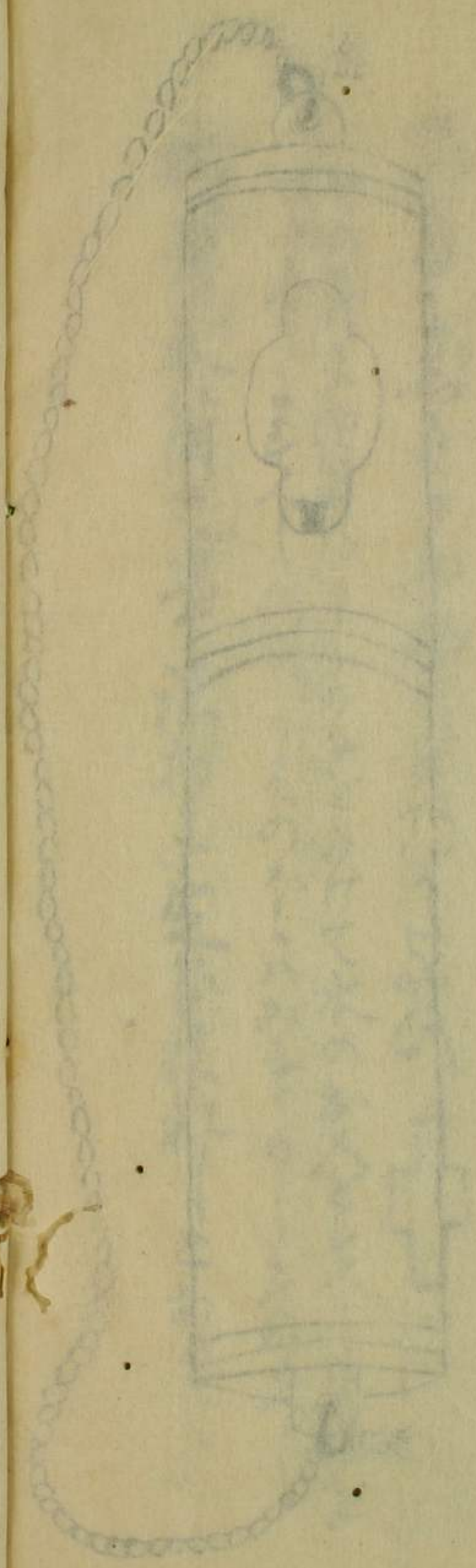
一 白草にてまへ一條の白糸繩をへ一太小丸同
 一 水筒之事柄をへ八寸節を長さ一尺四寸作り
 上へ乃節れ亦にむかすは乳といふて穴を
 しそへひよくは繩をこゆして取れまへへ
 たり中乃節となれり一乃ちすあり行
 と用て筒に水くかたをへ一はあつた節
 乃るまへへ一はひ
 中の節は他節乃るあつたをあげて水のお入をへ一はあつたを
 さすまへへ一は行乃るえのやうなみまへへ一はあつたを

此は考水筒之事柄抄は定家法れ一とあり



有はく乃すや不定と法抄ふありといふ
 有秘本にあり一電る書加えたりとすや
 亦あはは分てはをこの集亦見者や

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like "白平", "一", "二", "三", "四", "五", "六", "七", "八", "九", "十", "十一", "十二", "十三", "十四", "十五", "十六", "十七", "十八", "十九", "二十", "二十一", "二十二", "二十三", "二十四", "二十五", "二十六", "二十七", "二十八", "二十九", "三十", "三十一", "三十二", "三十三", "三十四", "三十五", "三十六", "三十七", "三十八", "三十九", "四十", "四十一", "四十二", "四十三", "四十四", "四十五", "四十六", "四十七", "四十八", "四十九", "五十", "五十一", "五十二", "五十三", "五十四", "五十五", "五十六", "五十七", "五十八", "五十九", "六十", "六十一", "六十二", "六十三", "六十四", "六十五", "六十六", "六十七", "六十八", "六十九", "七十", "七十一", "七十二", "七十三", "七十四", "七十五", "七十六", "七十七", "七十八", "七十九", "八十", "八十一", "八十二", "八十三", "八十四", "八十五", "八十六", "八十七", "八十八", "八十九", "九十", "九十一", "九十二", "九十三", "九十四", "九十五", "九十六", "九十七", "九十八", "九十九", "一百".



右抄者为敬宿随身法抄凡舍
付之相说亦一様可禁和見右
新依行顔

永正三年春二月日

左金吾將軍藤

大清宣統元年

庚子年二月二日

卷之二

庚子年二月二日
庚子年二月二日
庚子年二月二日

